

六^あ連^ん銭^{せん}

平成16年3月

〒381-1231 長野市松代町松代4-1(真田宝物館)



あさぎ

そめぬい

浅葱地牡丹立木模様染繡小袖 宮本家寄贈資料

友禅染の技法を部分的に用い、糊を置き白上げにしたり、部分的に刺しゅうをほどこした^{あわせ}裕の小袖。このような「立木模様」は江戸中期に流行し、江戸後期まで続いた。

の服飾

資料のなかには多くの服飾類は日常的に着用されたものもあまた、儀式の場で着用する礼服が中心

男性・女性そして子供の服飾を紹介します。また、絵画作品からもあわせて紹介します。

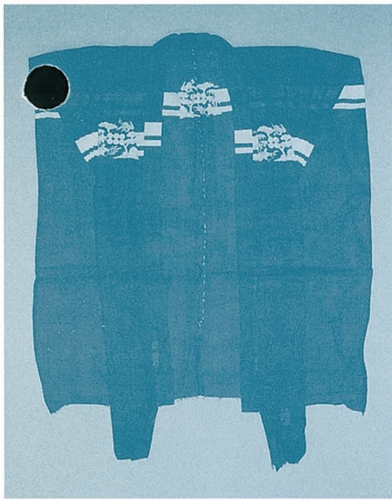
男性の服飾

男性の服飾には実にさまざまな種類があります。それらは身分や行事によって決まった種類・色の装束を身につけることが定められていました。

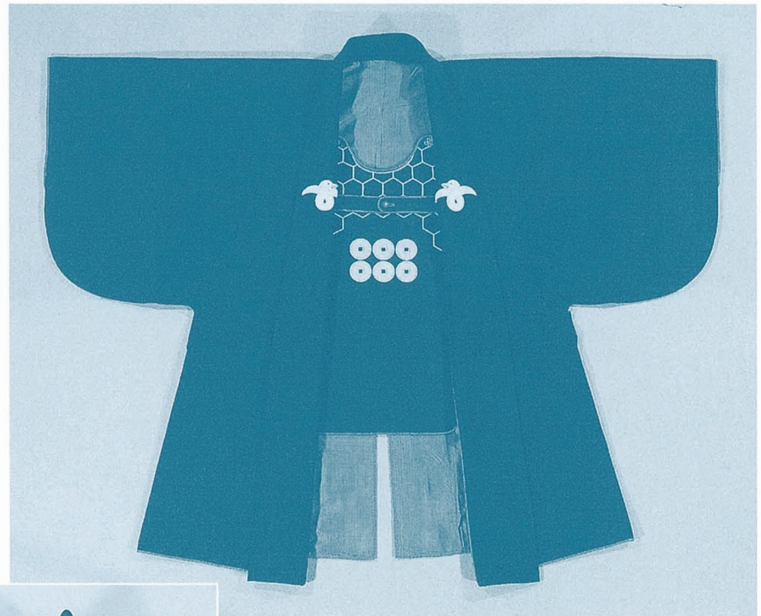
将軍宣下や神事・祭事に着する衣冠束帯にはじまり、直垂、直衣、狩衣、大紋、袴、素襖など実にさまざまです。

また、日常着用していたものは藩主画像などから、小袖や小袖に袴、羽織袴などであったことがわかります。

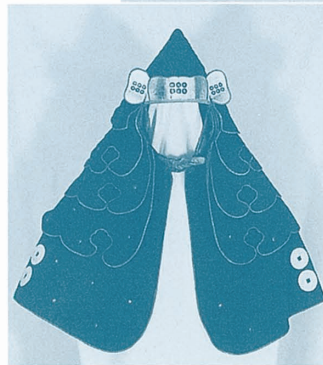
他に防寒具としての被布や雨衣、火事装束などもあげられます。



はかまぎ かたぎぬ
伝・真田幸弘所用袴着用の肩衣



真田幸弘所用の火事羽織と火事頭巾



の服飾

女児ともに小袖を着ていました。さまざま蝶結びにした帯を締めた子どもたち

髪を剃っています。髪置（かみおき）の髪型にして男児は五歳の袴着（はかまぎ）の袴を着ることになります。さらに女児は七歳普通帯をつけることになるのです。



ひふ
袴姿の真田幸貴と被布姿の松浦静山
(感応公並黒羽平戸二侯画像)

武家の

女性の服飾

女性の服飾も季節や階級、それに年齢によって、地質や色目、模様などさまざまな慣例がありました。

冬は小袖に打掛、夏は帷子かたびら（裏地のない麻などの布小袖）や単ひとえ（裏地のない絹もの）の小袖、春や秋は袴あわせ（裏地のみあるもの）を着ていました。

真田家奥方の婚姻時の『御召物帳』をみると、実に豪華な衣装が数百着も整えられています。一方で日常着としては模様を用いず、縞ものや無地に紋付を着ていたこともわかります。また、「朝召」「昼召」「夜召」の区別があり、一日に何度か着替えをしていたこともわかります。

真田家旧蔵資料や諸家寄贈のものが伝えられています。それらはいろいろありますが、多くはさまざまな偏りです。

今回は、それらのなかから男テーマとして、そのごく一部のなかからみた「服飾」について



あさぎ かずき
浅葱地桜模様三つ並杵紋付被衣 前島家寄贈資料
被衣ひよは外出時の日除けのための衣服で、襟えりが前方にあるのが特徴。



りんず めいとりうぶぎ
桃色綸子扇に草花模様縫取産着



無地に紋付の小袖姿の10代夫人
さなだゆきもと
(真田幸民夫人画像)

子ども

江戸時代の子どもたちは、通常男児・さまざまな絵画資料のなかからも、小袖を着る姿が多くみられます。

さて、幼児は男女ともに三歳までは髪祝で、はじめて髪をのばし始めます。その祝で、その成長を願ってはじめて袴を着る帯解（おびとき）の祝で、付け帯から

松代十二箇月図巻 にみる服飾

真田宝物館所蔵の「松代十二箇月図巻」は、江戸末期から明治初めにかけて活躍した松代藩の女性画家・恩田緑蔭による作品と伝えられています。

恩田緑蔭は文政二（一八一九）年、松代藩士・恩田民正の長女として松代に生まれています。名をゆりといい、桜雲亭とも号しました。幼少より絵画に親しみ、人物像や生物の写生図など多くの作品を残しています。この作品は当館に伝わる唯一の作品です。

この絵巻は、武家の一年間の生活行事や年中行事を、月を追って描いており、松代のさまざまな風俗を知るうえでも大変貴重な作品です。正月の遊びに始まり、上巳・端午の節句、松代の代表的な祭りである天王祭、盆踊り、七五三の祝、恵比寿講など四季折々の風情が情緒豊かに描かれています。

服飾においても、松代の武家やそこを訪れた人々の装束が細かな描写によって描かれ、その時代の装束を知る手がかりとなるのです。



だいかくら たつつかばかま
(4月) 太神楽 裁付袴の男たち。



とうけい
(3月) 鬪鶏 総模様のはなやかな振袖姿の女性たち。



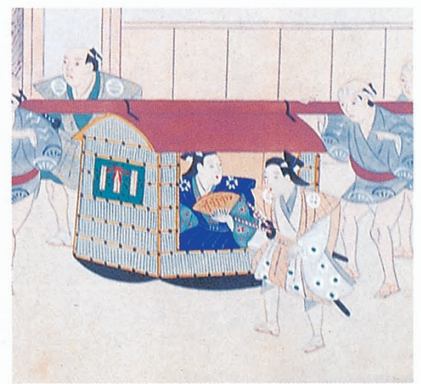
みかわまんざい わかしゅ
(1月) 三河万歳 小袖に振袖の羽織をはおった若衆。



つぎかみしも
(6月) 祇園祭見物 薄手の継袴や羽織袴の武士たち。



いちめがさ さおとめ
(5月) 田植え 市女笠に振袖姿の早乙女。



ももだち
(5月) 端午の節句 股立をとったお供のもの。股立とは袴の横をまくりあげた姿。



しりはしより
(12月) 正月準備 小袖の裾をまくりあげた尻端折姿の商人たち。



かみおき
(11月) 七五三の祝・髪置 3歳は剃っていた髪をのぼし始める髪置の祝。小袖に打掛姿の奥方。



(9月) 染物 たすきがけをし、生地を洗う女性。ひよりけた、そうり日和下駄と草履を履いている。